



毎月十五日発行 発行所 大社会 宗像 福岡県宗像市東園一丁目一八三番 電話0936-351131 代定価 一年送料共 1000円

神具、装束 株式会社 井筒 福岡市博多区東園一丁目一八三番 電話0936-351131 本社 京都市下京区油小路六条北入(宇治) 電話京都(075) 三四三三四

昭和五十八年度

秋季大祭(放生会)厳粛に斎行

秋晴れの好天に恵まれ空前の賑い…… 神賑行事も盛大に行われる

秋晴れの去る九月三十日より十月三日まで、恒例の宗像大社秋季大祭が厳粛かつ盛大に斎行された。十月一日、秋季大祭の初頭を彩る御生祭(みあれまつり)の海上神幸が盛大に執り行われた。

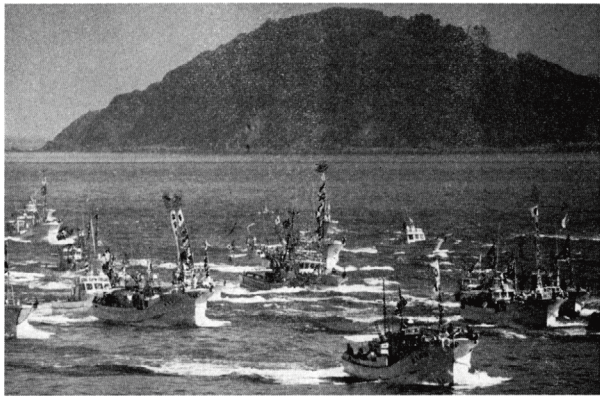
秋の大祭に際して、御座船一が、当大社神職、沖・中両宮奉賛会が奉仕のもとに

十月一日、午前八時三十分、中津宮に於いて、沖・中両宮の御神輿出御が斎行された。同日午後、白衣白袴、白鉢巻白足袋に身を整え、若くは漁師等の奉仕員(一合八名)によって大島港中央波止場まで

沖津宮御神輿は、「生幸丸」(権田泰郎船長)と「海幸丸」(中津宮御神輿)が斎行された。同日午後、白衣白袴、白鉢巻白足袋に身を整え、若くは漁師等の奉仕員(一合八名)によって大島港中央波止場まで

波止場では、船首に波切御幣を立て、赤地に白めきの御座船旗、白地に黒書の大書した「国家鎮護宗像大社」の大旗、古式に則り青竹に紅白の御長手、国旗や満旗を、晴れ舞台を迎えようと潮風にはためき、今や運しと待機していた。

ここに、沖津宮・中津宮・辺津宮の三宮の御神輿が、おそよいなりに、辺津宮本殿に入御されたのが、正午十時であった。昭和五十八年度の秋季大祭第一日祭が斎行されたのである。



勇壮な海上神幸



(翁舞)



(流鏝馬)

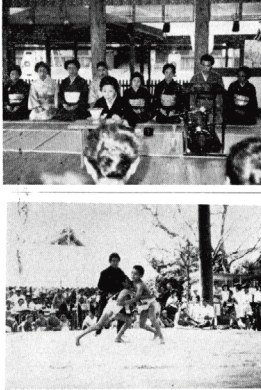
宗像放生会の模様

九月三十日午前十時、大儀の音が聞かれた。祭の始まるに当り、高宮大正祭並社地主祭が、夫々斎行され、また、午後六時に宵宮祭が斎行された。

十月一日午前九時、辺津宮出御が斎行され、神湊町車に「辺津宮御神輿」が奉安された。

同日午後、白衣白袴、白鉢巻白足袋に身を整え、若くは漁師等の奉仕員(一合八名)によって大島港中央波止場まで

かかして秋季大祭第一日祭が斎行された。郡内神職代表(宗像支部長伊東徳大、森神社司)による奉幣の儀が行われ、続いて国家鎮護・五穀豊穰・大漁満足・交通安全等を祈念すべく、祝詞を、葦原宮司が朗々と奏上された。また、地元青年団員奉仕による優雅な風俗舞が奉納された。



宗像大社歌会詠草

第二六七回 毎月一日、切詠草到着順

- 通り堂 大木よしの一 見出しは養父の画像に艶やかな牡丹の花描かれてあり
田熊 今村一重刀 菊作り甲斐とせし吾なれど八十をこえて精根つきぬ
八幡西 磯谷 緑南 引き揚げるおりに貫ひし軍服の仕立て直して着て子等育つ
原町 塩川ハルコ 綱戸越しに向う山より昇り朝陽をベッコに充みち足りて拜む
原町 八波 五月 草取りて花殻掃き風通る庭を灯して仏を迎ふ
大島 坂矢あきえ しほみたる花の踏まれし朝の道その幾つかはまだ紅かすりき
大島 中村さつき 松林に慈母観音の躰立ち暑き真夏の光を反す
大島 山形とみえ 咲き残る紫陽花一枝供えつつ夏の終りの心足らへり
大島 佐藤 八郎 赤とんぼ止まりて薄の風にゆれ夏の終りの夕べ静けし
大島 田志 雅子 一人居の厨の窓に聞える秋の夜更けのゴロゴロの音
大島 豊福 猪走 無難室に語る友なく一人居て交信開きつつ十五年すく
大島 木田よしえ 矢部川に沿ひて繁れる保安樹の枝たくましく天空覆ふ
大島 目原 節子 山深く盛りてあます無で仏人の願ひのこもりて光る
大島 勝代 遠賀病院石松や寿子に抱かれたまぐ敷居は高からん八月前には歩きし姉の
吉留 白木うめの 身の程を知らぬ夏の蛾外灯に群がり落ちてゆく
武丸 原田 リノ 電話の番なりとわがせむいざりきて受話器を取れば間に切れぬ
田熊 鷺津かつ代 いさり舟波に揺れるひるさがり白鳥の二羽磯ちかく翔ぶ
福間 山本 夏枝 駅前橋の並木夏の日には青々として陰を深くす
戸畑 田中ハツセ 嘴よりはみ出でし魚を雛鳥は親よりもらひ囀るみにしたり
自由ヶ丘 後藤君代 現世の控うべない敷異昔朝も読みをり心づつたり
津屋崎 高田マサ子 待望の雨に草木もよみがえりがく紫陽花に返り花咲く
香椎 桜井 ツ子 雪柳の次には桃を供へむか夫亡き十八年の春過ぎゆ
大和町 中村 勇 峯の水集まるころこの峽に千年の肌肌き鬼杉
鐘崎 安永 久子 樽子かけ熱る葡萄ももぎていし吾子は今亡く風渡りゆく
津丸 古賀 文月 ゲートボール巧な人にならざれば我が玉いつも素直ならざり
田熊 力丸 一郎 暑き日を道辺の高き垣越しにあか白分けてさるすべりの咲く

# 〔御案内〕 十一月の行事

## 錦秋の一日を菊花の香漂よう 御社頭でお過ごし下さい

十一月一日～十九日まで  
第十三回  
西日本菊花大会

九州・山口各県より  
三千余鉢の菊花展示

西日本菊花大会は、その規模・質に於いて西日本一と称され、秋晴れの神苑に大輪・懸崖・総合花壇等花が咲き競います。

〔摘要〕  
期間 十一月一日～十九日迄  
会場 境内  
夜間照明有  
観覧無料

本年第十回目を迎えるの会場は、熊本市に本部を置く清香社(会長益中 桜月)社中の会員およそ二百名による参加者が、奉納する吟詠大会である。特に本年は十周年記念にあたるので構成吟の大作が披露される。

〔摘要〕  
開始時刻 午前九時より  
会場 清明殿

宗像地区の小学生から一般までの男女剣士が出場し、個人戦に熱戦を繰りひろげ、野外で行われる宗像地区最大の剣道大会で、最高剣士の栄誉を競います。

〔摘要〕  
試合開始 午前九時より

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

十一日～十五日  
第十一回盆栽展

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成



宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

# 〔御案内〕 七五三まつり

当大社では、お子様の健やかな御成長を御報告する、恒例の「七五三まつり」を、本年も左記により盛大に執り行いますので、皆様お誘い合せの上御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

期間 昭和五十八年十一月六日(日)～十一月二十三日(木)

〔尚、この期間以外でも、おまつりは行っております。〕

初穂料 一件(一人) 三〇〇〇円  
一名増すごとに二〇〇〇円の追加となります。

授与品 御祈願お申し込みのお子様には、お守り・千歳飴・御幣等を授与致します。

〔都合により、祈願殿にておこなう場合がございます。〕



授与品 御祈願お申し込みのお子様には、お守り・千歳飴・御幣等を授与致します。

# 古代史探訪 (4) 織幡神社とその周辺

宗像郡玄海町鐘崎

◇イヌマキの天然林  
福岡県指定。天然記念物。昭和二十三年八月十二日

織幡神社の裏山一帯は、およそ三ヘクタールの境内林で、常緑樹がおおっている。なかでも、樹の胸高周りは四メートル、樹高約一八メートル(最大級)を含めて、三十本に及ぶイヌマキの木の原生林帯である。

この境内地のイヌマキの林は、自然発生による原始林といわれ、自然採種も含めて指定されたものである。

この樹林帯のなかには、シイ・ハナビラ等、約二十種類程度の雑木も自然に繁茂している。

やはり、この鐘の岬の佐原形山の原生林帯は、太古より海上交通の航海路の標識であり、目標林として人々に尊ばれてきたことである。

樺の木は、マキ科常緑針葉高木で雌雄異株で育たれている。主として熱帯地方に多く分布している。世界では、七属に分類され約一〇〇種からなるといわれている。日本では二種類が生育している。

◇境内地及びその周辺には、弥生時代(約二〇〇〇年前)の、カメ棺・石棺等の墳墓群が実在していたといわれているが、開発によりその姿は消滅している。

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫



宗像郡玄海町鐘崎の前半代)に上八村より現在地に移ったといわれている。ここに、寛永十二年(一六七二年)に銘の大型混濁形式梵鐘がある。総高六一・五センチ、鐘身高八六・一センチ、口径六八センチを測る。鑄工は肥前平戸の伊藤大隅(藤原貞勝)とある。

双童子の童頭が、逆丁字形で連弁二十七个よりなる笠形の上に乗せられている。鐘身の上は、円文をすき間なく並べている。中央部は無文とし、下部に大型の撞部二個を対応させて配している。この撞部の位置する段に、蓮華の手にて飛舞する天人像と、童子二人を従がえたる布袋像を彫出している。下帯には、雲氣中を飛翔する二童子を現わしている。

鐘身中央部の無文の所に、泉福寺第八世開上人が、北九州市小倉の黄葉宗宗寿山福聚寺開基の「一非」に請うてつくった長文の鐘銘が刻まれている。

この梵鐘には、作者・年紀・造頭由来を明記している。秀抜な鑄造技術に、朝鮮鐘・明鐘の特徴を兼ねそなえた、いわゆる「朝中混濁形式鐘」として特異な性格が注目されている。

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

〔考占士より見たる古代宗像の文化〕一貫形(昭和十四年五月) 田中幸夫

# 校内暴力は因果応報

「青年の狂気」を育てている。その責任者は「学校」である。しかし、人によってはこれと逆の意見もある。それは「校内暴力」で多く見られるのは教師であって、苦しんでいるのは学校側なのだ、むしろ被害者であるという説である。つまり学校は、「少年の狂気」の犠牲者なのだと言っている。なお、この手の意見は、常に「校内暴力の発生を阻止しなさい」という弁解とともに語られる。

これをもとに本音を推測するならば、「すべては事件を起こした少年が悪い。学校側は同情されこそすれ、非難されて、一層充実した盆栽展が開催されています。年々盛大になり、優秀な作品が多く、観覧者の中で大変な好評を博している。

〔摘要〕  
開催期間 十一月十一日～十五日  
展示会場 祈願殿内・二階ロビー  
観覧時間 午前九時～午後五時迄  
拝観無料

〔摘要〕  
宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像地区の盆栽愛好家の集り、宗像大社盆栽会(会長・石松寛氏)が結成

宗像大社因坊戦  
最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像大社因坊戦  
最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像大社因坊戦  
最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める

宗像地区囲碁界の最高位を決める



宗像大社歌会  
俳句作品集(四)

福間 二宮 末子

波音も聞えぬ鳴の夜の明け  
へり背筋を伸ばし表を歩く

福間 広渡一寿軒

混濁が消え去る如し温めの酒  
帆をあけ浮ぶ

鐘崎 岩瀬 辰夫

そこそそと寝寝草ふかす夜  
長かな

福岡西 入江 柳江

初ものいちぢく一つ手に  
うけて

東京都 白木 静江

石に散り土にこぼれて破白  
し

田熊 力丸 一郎

宿源しどの窓からも杉木立  
し

津屋崎 井浦 良介

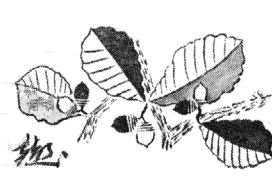
船閉航く風納まりしみあれ  
祭

藤沢 井上玄洋子

野分去り川潮るうりかな  
り

福岡中央丸ゆずる

野の仏野に古り花野極まれ  
り



(二面よりつづく)

池田 永富 臻

吾の背の曲りて来しと妻言  
へり背筋を伸ばし表を歩く

深田 中野 節子

波音も聞えぬ鳴の夜の明け  
へり背筋を伸ばし表を歩く

津丸 藤田 肇

現し身を此処に果たして悔  
なしと思ふまで山は清く美  
し

宮田 片山 朔子

征きませし九月は巡り来そ  
の朝の記憶はおぼろとなり  
て老いゆく

南郷 片山 雀林

亡き父が遺せし教訓偲びつ  
も世相の流れに耐へぬはさ  
びし

大井 吉田 和子

盆踊りにわが仕立てたる浴  
衣着て嫁の若さの匂ふごと  
し

王丸 小方 正人

絹のごと麟の如く懸る雲秋  
空高し吾れ一人行く

東郷 藤崎 辰子

つづまりは生きの寂しさ健  
康によしと聞かされ按摩機  
を買ふ

原町 中村 幸

明け方の窓に吹く風涼し  
り健やかにわれの迎ふ一日  
か

津丸 松尾 豊

老人会一人身多き中なれば  
ダイヤモンド婚などおそろ  
か言えず

武丸 立石若乃

「おぼあちゃん」と今にも  
呼んでよけりそな首孫の写  
真千葉より届く

津屋崎 谷口 礼子

ありし日の姿は写真のみと  
なりすべはむなく霊界に  
たつ

古賀 吉武 邦夫

放生会のサーカスの少女村  
童の淡(あわ)き哀しみな  
べて幽(かそけ)し

吉留 高山 信子

家猫は野良猫ソツとしない  
いて己のたべ物わけ与え  
る

宗像郡考古学散歩

新原百塔 (津屋崎町勝浦新原所在)

いししいただし

(35)



津屋崎側から玄海町へ向  
うところに、巨大なカント  
リエレベーターの建物がある。

その手前に、路が二つに  
分かれているが、その中央  
に新原百塔の標柱が立って  
いる。路を右に折れて間も  
なく、左手に青緑色のフェ  
ンスに囲まれたところがある。  
横に新原百塔について  
の説明板が立っている。

盛土されたところに、墓石  
みたいなものが、いくつも  
立っている。これが新原百  
塔といわれる板碑(いた  
び)群だ。

実は盛土したと記した  
が、勝浦新原16号墳(津屋  
崎21号墳)と呼ばれる川墳  
の墳丘上に、鎌倉時代の板  
碑が造立されているのであ  
る。

これは大きく二種あり、  
一つは普通一般的な形状  
で、平たい石の頂部を山形  
にして、その下に二段の切  
り込みと額を作り、碑の中  
央部に梵字や仏像を彫り、  
下方に造立の願文や、年号  
などを記すもの、もう一  
つは自然石や、それに近い  
もので、これは自然石板碑  
といわれる。彫られた内  
容は前者と同じである。

板碑造立の目的は、死者  
の菩提を弔うもの、願主自  
身が生前に死後の法事を営  
む逆縁、墓塔等である。郡  
内と周辺の板碑の例として  
は、鎮国寺のものが多い。  
阿弥陀如来像を彫り、元永  
二年(一一一九)の銘がある。  
平安後期のものだ。また  
大興院には弘長二年(一一  
二六三)の銘をもつ。粕屋  
郡古賀町延内(むしろ阿弥  
陀如来像に、建長七年(一一  
二五)の銘があり、それ  
と関連あると思われるのが、  
勝浦の牛毛神社永嶋宮司に  
前、近くに銘がないが、薬  
師如来像が彫られ、組をな  
すものと推察される。

百塔の中に入ってみよ  
う。板碑は一一〇センチから  
七〇、八〇センチ程度、対  
角線は約一メートル、

この調査で、約二十箇  
所の古代祭場の発見。六  
ヶ所の遺跡発掘調査によ  
り、金指輪・二十八面の  
鏡・玉類・腕輪・(香葉  
・雲珠)の馬具類・滑石  
製品等二万数千点に及ぶ  
多くの神宝類の出土をみ  
た。(報告書)

調査報告書) 宗像  
神社津屋宮祭祀遺跡出土  
品として、改らためて  
国庫に指定される。(文  
化庁告示第四八号)官報  
沖ノ島 宗像神社津屋宮祭  
祀遺跡(昭和三十三年三月  
刊行)



馬石といわれる玄武岩であ  
る。二三基が残り、一基は  
折れている。

その内の八基に梵字、図  
像が彫られているが、これ  
らは昭和四十九年八月日に  
福岡県の有形文化財の指定  
を受けた。図像は金剛  
界大日如来・虚空藏菩薩。  
文珠菩薩・釈迦如来等だ。  
板碑の周囲には丸石が敷か  
れているが、これは古墳以  
後のものであろう。古墳  
墳丘のほぼ中央の一基に

主要な神宝類は「宗像  
神社津屋宮祭祀遺跡出土  
品として、改らためて  
国庫に指定される。(文  
化庁告示第四八号)官報  
沖ノ島 宗像神社津屋宮祭  
祀遺跡(昭和三十三年三月  
刊行)

円、とある。下の文字は埋  
もれて読み難い。百塔は何  
の目的で造立されたもの  
か。文永十一年(一一七四  
)といえは文永の後の、い  
ゆる元寇が思い出される。  
百塔について文獻はどの  
ように記しているか見てみ  
よう。

筑前国統風土記では  
「此浜に百塔津、石塔有  
り、昔は百有しと云、今も  
多し」  
筑前国統風土記附録は、  
「百塔、本編にも見ゆ、  
今里は百塔百堂ともい  
えり、シンバルといふ所に  
あり、其内に文永の年号  
あり。久しき物なり。里民  
条時頼諸国行脚の時、平家  
の一族追福の爲に立られし  
といへり」とある。

筑前国統風土記附録では  
「新原に在、今里は百堂  
とも云、石塔多数あり、  
中に、建立(建立は改立の  
まちがひ)あり。  
里民は北条時頼國有し  
の時、平家の追善の爲に、こ  
の地に百塔を建てたりと  
いひ伝ふれども、大いに誤  
なり。一説云、時頼は弘長  
三年(一一二六)に卒せし  
かば、文永十一年より十二

より行なわれ。  
沖ノ島生物総合調査報  
告(福岡県高等学校生  
物部会編)  
福岡学芸大学学芸紀要・理  
科系統(昭和三十三年  
度8号)  
野鳥36巻3月号  
等に神像に関する調査を再  
々行なわれてきた。  
宝物館(宗像郡重要文化財  
共同収蔵館)が、昭和三十  
九年(一九六四)四月  
七日、完成、昭和三十四  
年に文化財収蔵庫の建設  
工事に着手し、昭和三十  
八年八月いよいよ館建  
設工事に入っている。(社報  
宗像41号)  
昭和三十一年(一九六四)  
十一月二十日、宝物館完

成に伴ない、沖津宮出土  
品が文化財保護委員会よ  
り全て返却され、同館に  
搬入す。(辺津宮日記)  
昭和四十年(一九六五)一  
月一日、宝物館をオーブ  
ンし本日より一般公開  
す。これにより、沖ノ島  
出土神像の他、当社社伝  
の経石・狛犬・古文書・  
足利尊氏に關する重要な  
文化財の指定を受けてい  
る社史を初めとして、多  
くの社伝書と、宗像各  
地より寄贈・寄託の文化  
財を数多く、一般の方々  
に展覧した。これにより  
文化財の有する意味、保  
存の意義と郷土の地域性  
の考察及び研究に大いに  
役立ってきた。

沖ノ島・特別地区となる(続)

(続)

古くから祭祀遺跡と祭祀  
像大神信仰及び、その尊厳  
の根源となる、沖ノ島ノ  
島の学術調査を行ない、宗  
像神社の神威と、宗像神社  
史の完璧性を厳守する。こ  
の根拠を追求する必要性を  
考慮し、昭和二十七年、宗  
像神社史の編纂再開時に、  
一つの問題点として強く定  
義づけがなされた。

古賀 吉武 邦夫  
放生会のサーカスの少女村  
童の淡(あわ)き哀しみな  
べて幽(かそけ)し  
吉留 高山 信子  
家猫は野良猫ソツとしない  
いて己のたべ物わけ与え  
る

文化財についての考え

松子

この調査で、約二十箇  
所の古代祭場の発見。六  
ヶ所の遺跡発掘調査によ  
り、金指輪・二十八面の  
鏡・玉類・腕輪・(香葉  
・雲珠)の馬具類・滑石  
製品等二万数千点に及ぶ  
多くの神宝類の出土をみ  
た。(報告書)

宗像 昭和三十三年(一九五八)  
密航船一隻入港するが、  
巡視船に引渡す。六月  
十八日に、沖ノ島神宝護  
持監視員を常駐とし、佐  
藤市五郎着任す(沖津宮  
日記)  
沖ノ島生物合同調査が、昭  
和三十一年(一九五五)に  
次に行われ、福岡県高等  
学校生物部会(西原幸男  
・尾川大録ほか)の手に  
行われる。(沖津宮日